

4 倉敷みらい創生人口ビジョン

4-1 地方創生への取組

国においては、少子高齢化・人口減少に対応し、将来にわたって活力ある社会を維持していくため、平成26(2014)年に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、併せて人口の現状と将来の展望を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び、5か年の国の方向を示した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました(その後、令和元(2019)年12月に改訂)。

「まち・ひと・しごと」とは、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立させ、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すという意味が込められています。

倉敷市においてもこれらの動きをうけ、平成27(2015)年9月に、市の人口の現状と将来の展望を示した「倉敷みらい創生人口ビジョン」(以下「人口ビジョン」という。)、及び、市の地方創生に取り組むための基本目標や基本方針、具体的施策を盛り込んだ地方版総合戦略「倉敷みらい創生戦略」を策定しました。そして、このたび、倉敷市第七次総合計画と第2期倉敷みらい創生戦略を策定するにあたり、市の人口動向の変化を踏まえて人口ビジョンを改訂し、ここに示すこととしました。

「人口減少」と「地方創生」…

- ・人口減少と少子高齢化が進むと、医療・介護サービスの供給不足や、財政負担の増大が懸念されるとともに、地域の活力低下も危惧されます。
- ・日本の人口減少を大きく進めている要因は、若者の東京一極集中とされています。東京圏では人が増えるほど、様々な生活サービスが提供できなくなり、出産や子育てを望む人が減少します。また、地方での若者の人口も減少し、全体の出生率が低下します。
- ・今後、地方が活性化し、東京一極集中を防いで人口減少を抑えていくことが必要であり、この取組を地方創生の取組としています。

4-2 倉敷市の将来人口の見通し

1 倉敷市の将来推計人口

倉敷市の人口は、平成28(2016)年の484,056人をピークに減少が続いており、令和元(2019)年に行った将来推計では、令和27(2045)年には442,676人になる見込みです。(推計の手法は、21頁に記載しています)

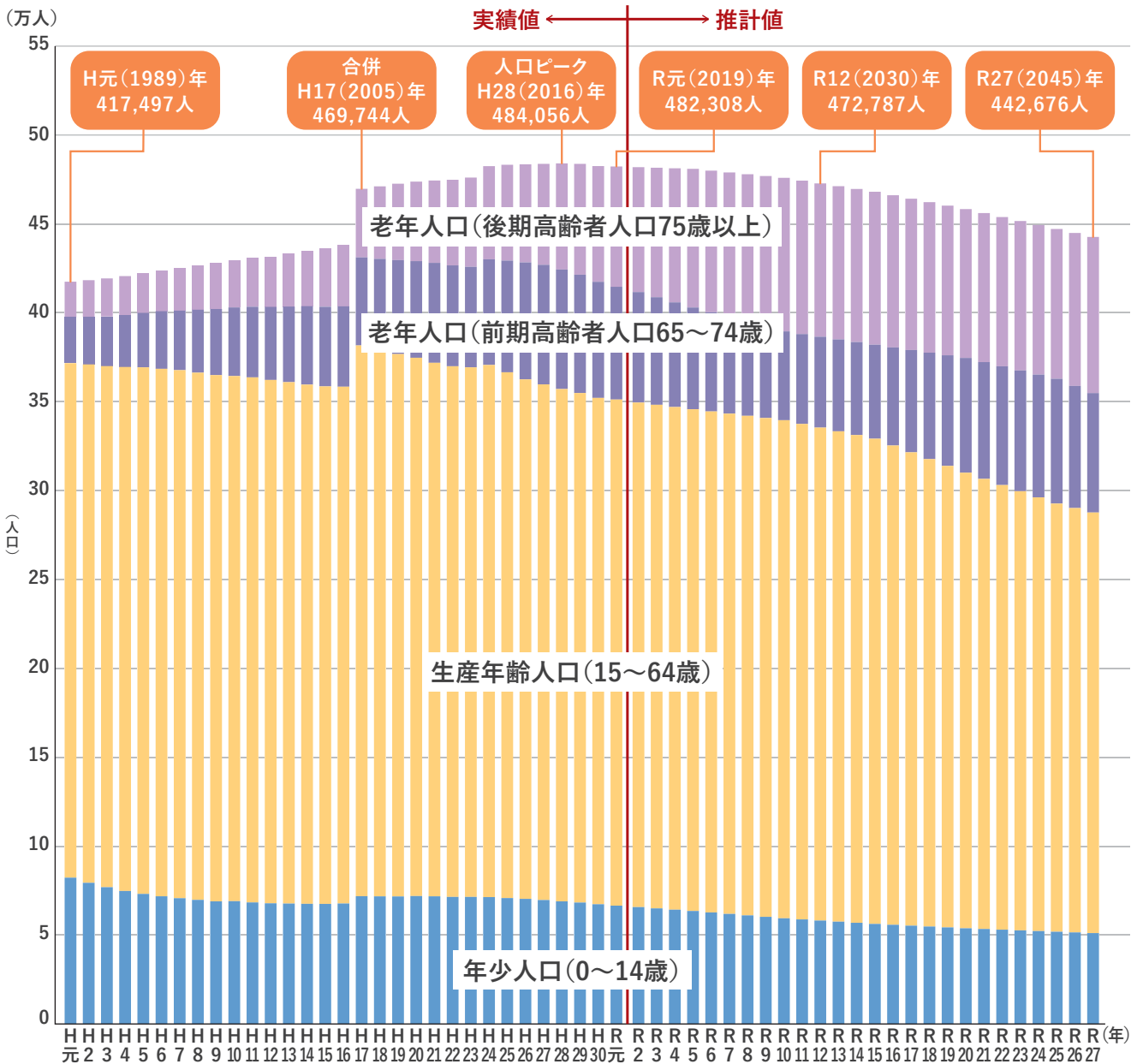
2 人口構成

人口減少の局面においては、年齢による3区分の構成比の変化も注視すべきで、平成元(1989)年から、将来推計による令和27(2045)年への変化は、次のとおりです。

- 年少人口 (14歳以下)の割合／19.7%⇒11.5%(8.2ポイント↓)
- 生産年齢人口(15～64歳)の割合／69.3%⇒53.4%(15.9ポイント↓)
- 老年人口 (65歳以上)の割合／11.0%⇒35.0%(24.0ポイント↑)

これは、経済の生産活動を主に支える世代とその先を担う年少世代が縮小していくということであり、倉敷市の将来人口を先細りさせる人口構成に近づいていることを示しています。

●倉敷市の人口推移と見通し



●年齢3区分人口割合(推移と見通し)

単位:%

	H元	H7	H12	H17	H22	H27	R2	R7	R12	R17	R22	R27
年少人口割合	19.7	16.6	15.7	15.3	15.1	14.4	13.6	12.9	12.3	11.9	11.7	11.5
生産年齢人口割合	69.3	69.9	68.2	65.9	62.9	60.0	58.9	58.8	58.6	57.4	55.1	53.4
老年人口割合	11.0	13.5	16.1	18.8	22.1	25.6	27.5	28.3	29.1	30.7	33.2	35.0
前期高齢者人口割合	6.2	7.9	9.5	10.5	11.9	13.9	12.9	11.3	10.8	12.4	14.7	15.2
後期高齢者人口割合	4.8	5.6	6.6	8.2	10.1	11.7	14.6	17.0	18.2	18.3	18.5	19.8

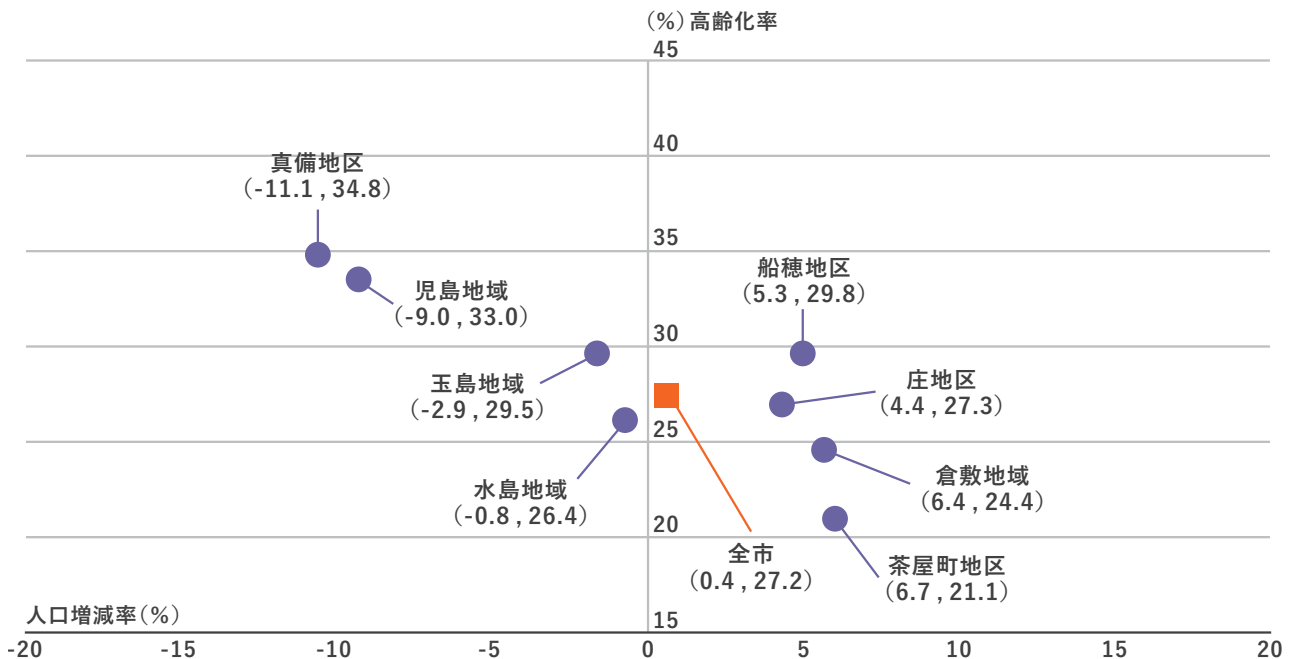
※少数点第2位で四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

3 地域・地区別の人口推移と見通し

人口の推移と今後の見通しについては、市内の地域・地区で差が見られます。

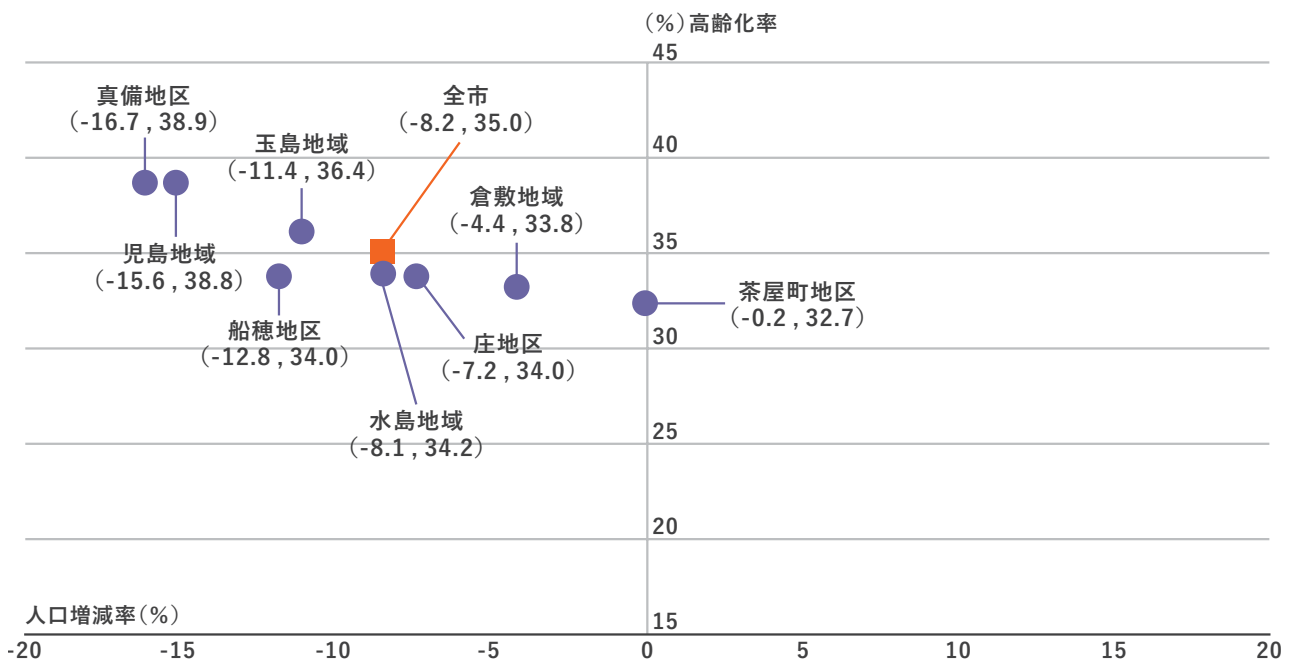
ここでは、8つの地域・地区(倉敷地域・児島地域・玉島地域・水島地域・庄地区・茶屋町地区・船穂地区・真備地区)ごとに、人口増減率(これまでの10年間の傾向と今後27年間の推計)と高齢化率(令和元(2019)年と令和27(2045)年の推計)をグラフで示しています。

●平成22(2010)年と令和元(2019)年を比較した地域・地区別人口増減率及び令和元(2019)年の高齢化率【これまでの傾向】



倉敷市市民局市民課「住民基本台帳」をもとに算出

●令和元(2019)年と令和27(2045)年を比較した地域・地区別人口増減率及び令和27(2045)年の高齢化率の見通し【将来推計】



4-3 地方創生のためにめざすべき将来の方向

1 危機感を共有し、地域への愛着と誇りの醸成のもとに

人口減少社会においても活力ある地域を維持していくためには、強みを活用した地方創生の取組が必要です。倉敷市は、美観地区や瀬戸内海国立公園をはじめとした豊富な観光資源、水島臨海工業地帯を中心とした企業や繊維産業などの製造業、各地域の特色ある農産品・水産物など伝統産業から先端産業まで多様な産業を有しています。また、大型商業施設、三次救急指定病院、大学等の高等教育機関などの都市機能も集積する都市です。他にも、交通の面では古くからの要衝であり、瀬戸内海の温暖な気候にも恵まれるなど、多くの強みがあり、こうした個性と魅力を最大限活用することが重要です。

長期的には「地域への愛着と誇りの醸成」が重要であり、郷土くらしきを愛し、誇りに思える人を増やすことをめざして施策を行い、人口減少のスピードを遅らせていく必要があります。

2 人口減少・東京一極集中の是正に向けた基本的視点

倉敷市が、人口減少・東京一極集中の是正に向けた取組を進めていくにあたり、出生者数の増加と死亡者数の抑制による「人口の自然増」、転入者数の増加と転出者数の減少による「人口の社会増」、さらに、広域での自治体連携により地域の総合力を高め、地域全体の活性化を図っていく「地域連携の推進」の3点を基本的な柱とします。

人口の自然増に向けて

次世代の倉敷市を担う子どもたちを育むために、結婚・妊娠・出産・子育てに係る支援制度の充実に向けた取組を推進します。これまでも倉敷市では、国に先駆けて、妊婦健康診査の公費負担回数の拡大など様々な施策に積極的に取り組んできました。また、高齢者が元気で活躍できる取組を進めます。健康寿命の延伸は、「まち」の活力向上につながります。

そして、倉敷市で生活している人々が「暮らし続けたい」と思うまちづくりを推進します。

人口の社会増に向けて

東京圏を中心とした都市部での新型コロナウイルス感染症の拡大により、人口の東京一極集中に伴うリスクが露呈しました。その結果、テレワークなどの経験により、地方移住や、ワーク・ライフ・バランスへの関心がさらに高まるなど、人々の意識・行動に大きな変化が生じてきています。

「ひと」を呼び込むためには、「まち」の魅力が必要です。そして、その経済的な基盤となる「しごと」が必要です。倉敷市は、文化観光都市としての魅力や多種多様な産業を有し、都市機能も集積しています。こうした強みを活用し、「まち」の発展、「ひと」の集い、「しごと」の創出の好循環につながる取組を推進します。また、学生の地元就職につながる取組も進め、大都市圏に居住する人々から「暮らしてみたい」と思われるまちづくりを推進します。

地域連携の推進

人口減少問題への対応は、1つの自治体の取組だけでは限界があります。

倉敷市は、平成27(2015)年3月、高梁川流域圏域の更なる発展や魅力向上を図るため、流域6市3町(新見市・高梁市・総社市・早島町・矢掛町・井原市・浅口市・里庄町・笠岡市)と高梁川流域連携中枢都市圏を形成しています。市町の枠組みを超えた地域連携により、人口減少に対応する様々な施策を推進していきます。

4-4 倉敷市の人口の中長期目標

倉敷市の強みを最大限活用しながら、人口の自然増・社会増及び地域連携の推進の3つの基本的視点に立った総合的な取組を行い、次の将来人口をめざしていきます。

倉敷市の将来目標人口

〈中期目標〉 令和 7(2025)年に480,000人程度をめざします。

〈長期目標〉 令和27(2045)年に459,000人程度をめざします。

● 倉敷市の人口見通しと人口目標

